特集 これが必要

いったい、プライマリ・ケアに本当に必要な薬とは何なのか?

総合診療医がプライマリ・ケア外来で使用する薬剤は数十種類と言われているが、その日本での実態は必ずしも明らかではない。また毎年、次々と新薬が発売されるなか、総合診療医はどの薬剤を採用、あるいは棄却するべきなのだろう。“ホントに必要な薬”が、わかりにくくなっている時代とも言える。

WHO（世界保健機関）がプライマリ・ヘルスケアに必要な「エッセンシャルメディシン」を提案し数年ごとに改定しているが、これは開発途上国をターゲットとしたプロジェクトでもあり（p.289）、日本にそのまま適用するには適切でないところもある。むしろ「パーソナルドラッグ（P-drug）」の考え方が有用なのではないだろうか。自分の診療セッティングで多く遭遇する疾患や病態に対して、エビデンスに基づく薬剤選択を行い、自身の“薬籠”を構成し継続的に更新していく作業が必要だ。

本特集では、「適正な薬物療法とは何か」を概観し、比較的古くからあって実際に総合診療医による処方頻度が高く、また総合診療医の薬籠に入れるにふさわしい薬剤を40種選んで、現代的な解説を試みた（p.302～）。総合診療医が「自らの処方集＝自家薬籠」を見直すきっかけになれば幸いである。

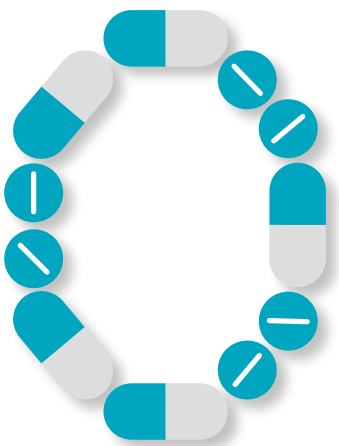
※本特集における㊢印は「後発品」を表しています。特記のないものは主に「先発品」ですが（保険薬価上、後発品しかないものはこの限りではありません）、必要に応じて㊢印をつけています。

※医薬品に関する記載内容は、出版時点における最新の情報に基づき、正確を期するよう最善の努力を払っておりますが、これを保証するものではありません。薬価や剤形、また添付文書などの情報は随時に更新されており、実際の医薬品の使用にあたっては、読者ご自身で最新データをご確認いただきますようお願い申し上げます。

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2017

2026/10/11 05:56:58

ホントにな薬



総合診療医の外来自家薬籠

企画 藤沼康樹

今月のQuestions

Q1 総合診療医が外来診療における「自家薬籠」をつくろうとする時、大切な感覚は何か? ››› 288

Q2 プライマリ・ケアにおける処方で、まず心がけたいことは? ››› 297

Q3 患者さんがメリットを感じにくいジェネリック医薬品は? ››› 343

2026/10/11 05:56:58